行政視察　菅原 達 議員

日時：平成28年4月13日（水）
場所：千葉大学　環境健康フィールド科学センター（柏市柏の葉6-2-1）

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～柏の葉キャンパス駅	鉄道	往復	203.0	2,920	2,060			4,980
								0
計				2,920	2,060	0	0	4,980

宿泊料@16,500×0泊	0 円
交通費	4,980 円
（うち航空運賃	0 円）
計	4,980 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長　　廣澤　良英

領収書

No.97-12

佐野市議会　公明党議員会　様

菅原 達

金額　5,400 円也（税込）

上記、植物工場　第97回勉強会参加の資料代として正に領収いたしました

2016年4月13日

特定非営利活動法人植物工場研究[redacted]
理事長　古在　豊樹
〒 277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2[redacted]
千葉大学環境健康フィールド科学センター
植物工場事務所内
TEL 04 -7137-8312　FAX 04-7137-8312

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

研修　菅原　達 議員

日時：平成28年10月2日（日）
場所：栃木県庁東館講堂（宇都宮市塙田1－1－20）

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野～栃木～東武宇都宮	鉄道	往復	86.2	1,480				1,480
計				1,480	0	0	0	1,480

宿泊料@16,500×0泊		円
交通費	1,480	円
（うち航空運賃		円
		円
計	1,480	円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長　廣澤　良英

領　収　書

菅　原　　達　様

¥１，０００－

ただし、両毛六市議員懇談会研修会出席者負担金として領収いたしました。

平成２９年１月２６日
両毛六市議員懇談会
会　長　宮　﨑　　武

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

研修　　菅原 達　議員

日時：平成28年10月28日（金）～10月29日（土）
場所：秋田県民会館・秋田市にぎわい交流館

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～小山駅～秋田駅	鉄道	往復	1,217.2	19,220	14,260			33,480
								0
								0
								0
計				19,220	14,260	0	0	33,480

宿泊料@16,500×1泊	16,500 円
交通費	33,480 円
（うち航空運賃	0 円）
計	49,980 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長　　廣澤　良英

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

収入印紙

AA No. 466267

TOBU TOP TOURS

お客様コード 0 6 1 0 1 1

平成28年10月28日
DATE

領収証 RECEIPT

RECEIVED FROM 佐野市議会議員 菅原達 様

領収金額 THE SUM OF ¥3,500-

但し FOR 大会参加費として

上記金額正に領収致しました
The above sum has been duly received.

FORM OF PAYMENT	
現金 CASH	
小切手 CHECK	
銀行振込 BANK REMITTANCE	✓
ギフト券 GIFT TICKET	
クレジットカード CREDIT CARD	

発行者印 [redacted]

東武トップツアーズ株式会社
秋田支店 [redacted]
秋田市山王2丁目1番40号（田口ビル1階）
電話 018（866）0109（代表）

※クレジットカードによる領収（お支払い）の場合、印紙税法上の金銭又は有価証券の受取に該当しないため、収入印紙の貼付は不要となっています。

収入印紙

AA No. 466268

TOBU TOP TOURS

お客様コード 0 6 1 0 1 1

平成28年10月28日
DATE

領収証 RECEIPT

RECEIVED FROM 佐野市議会議員 菅原達 様

領収金額 THE SUM OF ¥1,000-

但し FOR 大会報告書費用として

上記金額正に領収致しました
The above sum has been duly received.

FORM OF PAYMENT	
現金 CASH	✓
小切手 CHECK	
銀行振込 BANK REMITTANCE	✓
ギフト券 GIFT TICKET	
クレジットカード CREDIT CARD	

発行者印 [redacted]

東武トップツアーズ株式会社
秋田支店 [redacted]
秋田市山王2丁目1番40号（田口ビル1階）
電話 018（866）0109（代表）

※クレジットカードによる領収（お支払い）の場合、印紙税法上の金銭又は有価証券の受取に該当しないため、収入印紙の貼付は不要となっています。

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

日本女性会議 2016 秋田　（研修）参加報告書

2016.10.31

1. 日　　程　　平成 28 年 10 月 28 日～29 日

2. 研修場所　　秋田県秋田市（秋田県民会館・ジョイナス・にぎわい交流館など）

3. 参 加 者　　佐野市議会議員 横田誠氏、同 菅原達（報告者）

4. 目　　的　　日本女性会議 2019 年の開催地が先日佐野市に決定した。
それ以前から「日本女性会議を佐野市に誘致する会」に参画していた事から、今後誘致活動の妥当性含め様々研究する意味で、同大会への研修参加を予定してはいたが、先日、突然"2019 年度開催決定"の発表があり、驚きと戸惑いを抱えながらの参加となった。
開催決定となった以上は、3 年後に開催する事を前提として、今回の秋田大会の開催状況をしっかりと見極め、良い点悪い点を学ぶ事を目的とした研修として参加させていただいた。

5. 内　　容

(1) 会議全般について

会議の内容の全般については、配布された『大会プログラム』を別添とし参照していただくものとし、本報告書ではそれらについては細かくは触れず、私が実際に参加したプログラムや、市内の雰囲気などで感じた事やポイントなどについて整理するものとする。

(2) 市内の雰囲気

・秋田駅の改札口や駅の出口付近では、大会の"のぼり"は掲げられていたが、大会関係者らしき人たちによるお出迎えまでは無かった。
駅前ロータリー辺りから会場に向かう歩道にはグリーンのジャンパーを着たスタッフが数人づつ立っており、私たちの前を歩いていた女性に声を掛けていたが、男性二人組みの私たちは声を掛けられなかった。（参加者と思わなかったのか？）

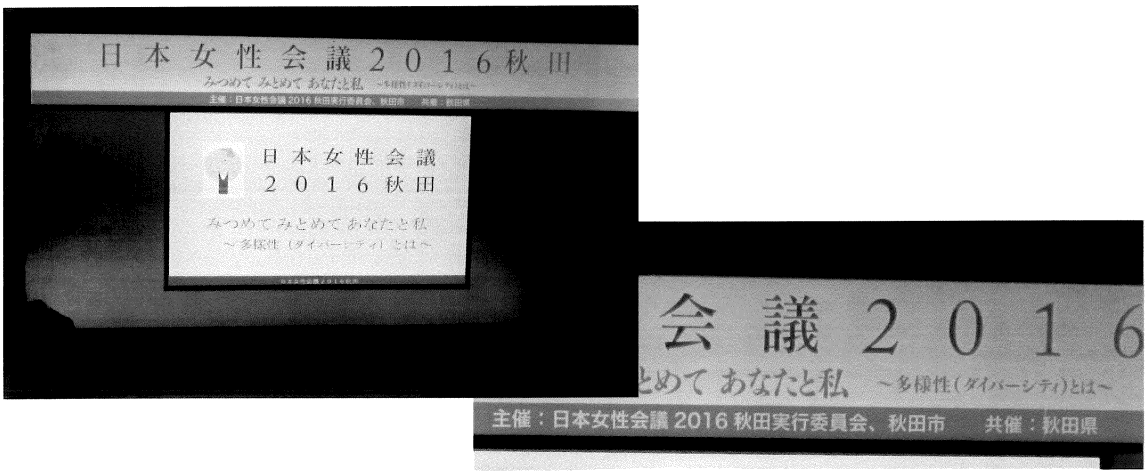
◆所感◆
最初のインパクトは大きく、"駅の改札口"もしくは"駅の出口"辺りで、関係者によるお出迎えが必要と感じた。しかも、もう少し歓迎ムードで男女問わず声を掛けるべきである。

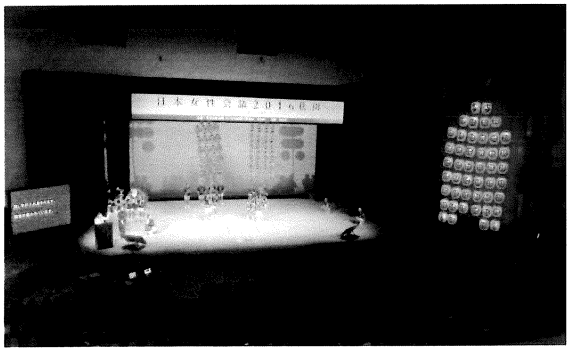
(3) 会場の雰囲気

開式数分前に入場したので、多くのスタッフが出迎えてくれ、ロビーは活気に満ちていた。次回開催市の「苫小牧市」やその次の開催市「金沢市」のブースもあった。

(4) 開会式及び開会アトラクション

主催は実行委員会と秋田市。共催の秋田県は佐竹秋田県知事が来賓として挨拶。



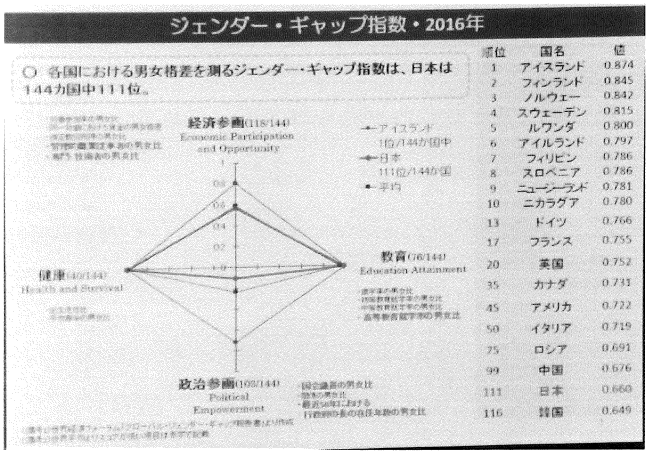


開会アトラクションは、地元小学の竿燈クラブのメンバー（6年生）による竿燈でした。

(5) 基調報告

内閣府男女共同参画局長　武川恵子さんの報告。

報告なので数字が多いのは仕方ないが、30 分の時間ではなかなか理解するのが難しかった。ただ内容的には興味深く、特に「ジェンダー・ギャップ指数・2016 年」が、昨年から 10 番順位が下がり、144 カ国中 111 位という最新情報の紹介があった。【経済参画】と【政治参画】の指数の低さと、日本の頑張り以上に世界各国の取り組みが進んでいる結果であると分析していた。



◆所感◆

内容と時間配分は慎重にしなければならないと感じた。

(6) 記念講演

ヘア・メイクアップアーティストの藤原美智子さんの「違いこそが個性を作る、自身を作る、魅力を作る」をテーマにした講演は、基調報告とは対照的でとてもリラックスして親しみのある暖かい雰囲気でテンポ良く進み、予定時間 40 分ほど残して「これで全部話は終わってしまいました」、「これで終わっても大丈夫でしょうか？」と終了しかけました。

一時どうなるかと思いましたが、本人が機転を利かせ会場から質問を受け付けてくれ、数人の質問に耳を傾け、しみじみ語りかける内容が、元々原稿に入れて講演として聞かせてもらっても良いくらいテーマの主旨にぴったり沿った素晴しい回答で、かえって会場の方の共感を得たかたちになりました。

型にはまらないスタイルで素人っぽく進行する一方で、さまざまな話がテーマとして一貫しており、あれもこれも伝えようとするのではなく、自然な対話の中でにじみ出る確信に満ちた話しが、その人柄と相まってとても良い印象として会場全体に広がった気がしました。

◆所感◆

記念講演の人選はとても難しいと感じた。例に出して申し訳ないが、その一つ前に行われた「基調報告」をやっていただいた方のように、一方的に話しを展開するのではなく、その場の雰囲気を上手に掴み、でもきちっと「核心部分」から外れることがなく、なるべく具体的な話を通して少しずつ相手に伝えようとする語りが、会場の一体感に繋がるのではないだろうか。

決して、学歴や肩書き、知名度だけで人選することなく、あくまでその人の持っている価値観や経験を踏まえた核心部分が、大会のテーマに合っているのか？どのようにそれを会場の人たちに伝えようとするのか？などに焦点を当て見極めるべきと考えます。

(7) 交流会（研修外の自費参加）

開会のアトラクションは、海外でも高い評価を得ている地元「なまはげ郷神楽」による和太鼓パフォーマンス。前年度開催地の「倉敷市」と次年度開催地 PR を行い、郷土料理の「きりたんぽ」や「いなにわうどん」には長い行列が出来ていました。（数量限定）

◆所感◆

「なまはげ」を始めて見たという方が多い上、世界中で郷土の素晴しさを伝えようと活動するメンバーによる規格外のパフォーマンスは、会場の多くの人たちに感動を与えたに違いないと感じた。

"伝統芸能"の力と、"郷土愛"の深さは、人に共感と感動を与えるものだと感じた。

(8) 分科会

私は第二希望の「貧困」をテーマにした分科会に参加。

NPO 法人女性ネット Saya-Saya 代表の松本和子さんの主張はとても新鮮で、『ひとり親家庭から見えてきた貧困』として貧困や虐待に関わってきた多くの経験を元にした貴重な話しを聞く事ができた。

その中で、DV について、「こんな事が起こっているのは自分のせいだと感じさせられている」女性と子どもたちがいて、「加害者責任であることを社会が沈黙」していることや、「被害者でなく、加害者を守っている社会」に責任があり、結果として、「被害女性と子どもたちの人生にその影響が連鎖」していくという問題を指摘していた。

また、「貧困」は社会の責任であり、社会の価値観が変わらなければ「貧困」を解決する事はできない、と言われていた。社会はどうやったら偏見をなくせるのか？と投げかけ、「どんな人も大事な人である：子どもも、高齢者も、女性も、障がいを余儀なくされる人も、病気の人も。」というメッセージを発する事が「社会の責務」であると訴えておりました。

そして、このような活動は、行政では継続的に行う事ができず（短時間しか関われない）、また民間では活動資金の面で継続的に行う事が難しいので、国や地方自治体で予算を創出し、全国で支援プログラムが実施できるような体制を取る必要があるという事である。

つまり、「民間との協働」である。

◆所感◆

「DV」や「貧困」はとても難しいテーマである事は事実である。

上述した松元さんは実体験を踏まえたとても奥深いところまで話しをされ、時間がもっと欲しいくらいの素晴しい内容でした。一方、他の 2 人のシンポジストやコーディネーターの話しには、「何か大切なものを伝えよう！」といった"熱意"や、「何を訴えたいのか？」が殆ど伝わらないといった両極端な出来栄えであった。やはり、発表者の"質の高さ"は重要である。

また、今回事前に希望を募ったテーマは［10］あり、その中から今回「貧困」を選んだ訳であるが、もう少しテーマを幅広く設定すべきであると感じた。

分科会は、興味のあるテーマを選んで参加するものなので、そこで発信される中身には高いレベルが求められると言える。

(9)分科会報告

［10］の分科会毎にそれぞれ概要を報告したのだが、正直余り印象が薄い内容であった。分科会報告のあり方については今一度議論すべきであると感じる。

(１０)シンポジウム

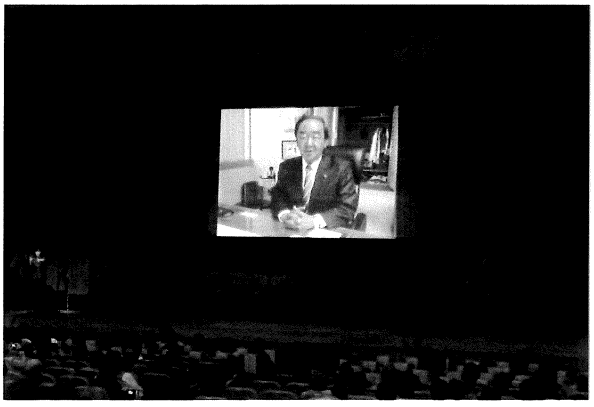
『秋田発「ケアリング（気遣いあう）」社会をめざして』をテーマに３人のシンポジストが、コーディネーター：秋田大学看護学講座教授、地域包括ケア・介護予防研修センター長など、「ケアリング」に関する専門家といえる今大会実行委員長の中村順子さんのコーディネートにより会議全体を総括する方向に促され最後の発表を行った。

興味を引いたのは、秋田県藤里町の社会福祉協議会で若者の引きこもり支援に斬新な取り組みをする菊池まゆみさんの報告です。『「藤里方式」が止まらない』などの本を出版したり、社会福祉協議会の領域にこだわらず、『カウンセラーやお医者さんの真似をしたって支援できないものもあります。福祉ではできない支援をさせてもらいました』と、幾つかの事業を立ち上げ、多くの若者の引きこもりを解消に導きました。

そしてそれにより地域の人たちに、『引きこもりは能力の低い人たちではない』ということを、事実を持って理解してもらったという事です。

(１１)閉会式

２日間の締めくくりで、穂積秋田市長から、「いくボス宣言」があり、また、次回開催市の「苫小牧市」の市長メッセージがあり、大会宣言で締めくくりました。



◆所感◆

2019 年の大会で、佐野は何を発するのか？誰が発するのか？それが重要である。以上

平成 28 年度　栃木県認知症フォーラム

笑顔で支えあう地域生活の実現に向けて
～認知症の人や家族の思いから学ぶこと～

日 時：平成 28 年 10 月 2 日
　　13 ：30 ～16 ：00
会 場：栃木県庁東館講堂

【プログラム】

１３：００　受付開始

１３：３０　開会挨拶
栃木県保健福祉部長　近藤真寿　氏
公益社団法人認知症の人と家族の会 栃木県支部代表　金澤林子 氏

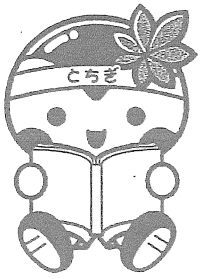
１３：４０　基調講演
認知症の人と家族に必要なサポート～介護者支援の視点から～
日本大学文理学部心理学科　助教　北村世都　氏

１４：４０　休憩

１４：５５　座談会「思いを語る～語りからわかる大切なこと～」
語り手
高倉 敬治　氏（認知症とともに生きる当事者）
大下 直樹　氏（認知症の人と家族の会 徳島県支部代表）
聞き手
金澤 林子 氏（認知症の人と家族の会　栃木県支部代表）
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
永島　徹　氏（NPO 風の詩 副理事長）

１５：５０　閉会挨拶

１６：００　閉会



特定非営利活動法人　植物工場研究会

第 97 回　勉　強　会

日　　時：2016 年 4 月 13 日(水)　14:00～17:30
場　　所：千葉大学環境健康フィールド科学センター　　植物工場　研修棟　A 棟 1F　研修室

コーディネーター：　篠原　温（千葉大学名誉教授･NPO 植物工場研究会）

プログラム：

14:00～14:10　挨　　拶　　古在　豊樹

全国10箇所の次世代施設園芸拠点事業の現状と課題

14:10～15:10　「次世代施設園芸拠点の現状と日本施設園芸協会による
全国推進事業について」
土屋　和（一般社団法人日本施設園芸協会）

15:10～15:30　休　　憩

15:30～16:30　「各拠点でみられた技術的問題点と改善について」
東出　忠桐（国立研究開発法人農業･食品産業技術総合研究機構）

16:30～17:30　「大型施設になるほど問題となる施設の管理･運営問題とその改善
～宮崎拠点の例を中心に～」
大山　克己（みのりラボ株式会社）

裏面へ続く

現地視察報告書

2016.6.3

1．日　　程　　平成 28 年 5 月 26 日

2．視 察 先　　NPO 法人だいじょうぶ（日光市今市 1659-10）

3．参 加 者　　木村久雄　菅原達（報告者）

4．目　　的　　「子どもの居場所」づくりについて学ぶため、NPO 法人だいじょうぶを訪問し、取り組みの様子を伺うと共に、同法人が運営する「子どもの居場所」のひとつ「ひだまり」を現地視察する。

5．応 対 者　　NPO 法人だいじょうぶ　代表　畠山　由美　理事長

6．内　　容

(1)NPO 法人だいじょうぶの取り組みの様子や様々な指南

① 子どもへの虐待を無くす事を目的に、平成 17 年 4 月に設立。
平成 18 年、市の委託を受けて相談窓口を始めたが、市と法人の窓口への連絡にダブりが見られ、議会の協力を得て 1 年がかりで窓口の一本化を実現。
⇒平成 19 年から官民一緒に相談窓口を運営し、公共の良さと民間のフットワークの軽さと、両方を生かした相談事業を実施。

② それでもなかなか入り込めない所もあり、そこにもどうにか介入して普通の生活を送らせてあげようと、「子どもの居場所」を始める。

③ 学習支援については、学習塾の塾長さんも強力してくれ高校生、受験生を毎週土曜日見てくれていた。（しかし本来、塾の費用は国が助成してくれればなお良い）

④ 市と県で 400 万円の予算⇒支援員配置予算を委託費として支援していただき、助かっている。

⑤ 支援の必要な家庭を見つけ出すのに、例えば水道の止まっている情報も、市の他の部門に出すことができれば良いのだが、それが出来ない。

⑥ それを発掘するのに、「子ども食堂」は効果的である。放課後、学童保育の終わった後の延長で、例えばカレーライスとか地元のボランティアの方に提供していただき、いろんな理由により家に帰れない状況の子どもは、残ってそこでご飯を食べてから帰るはず。
まずは、月に 1 回とか 2 回とか出来る範囲で始めればよい。
なお、小銭であってもお金は発生しない食堂であること。

⑦ ただし、学童保育費用も出せない子もいる。学童保育の費用はお菓子大が殆どなので、お菓子代はフードバンクを活用して無料にするか、所得連動型にするか、何かしら配慮が出来る良い。

⑧ 一般に、主任児童員は仕事が少ないので、その人を中心に対応するのが良い。

⑨ ボランティア説明会で地域の人材を発掘する。ボランティア登録や居場所体験などを通し、無理ない範囲で人材を作っていく。

⑩ ソーシャルスクールワーカー（SSW）を配置しても、繋げる先と繋げる方法を勉強しないと、結果的に SSW がひとり抱え込んでしまい行き詰る事になる。

⇒民間への発信や、つなげることが大事。

(2)その他

① 最近のランドルセルには値段の格差が大きい。

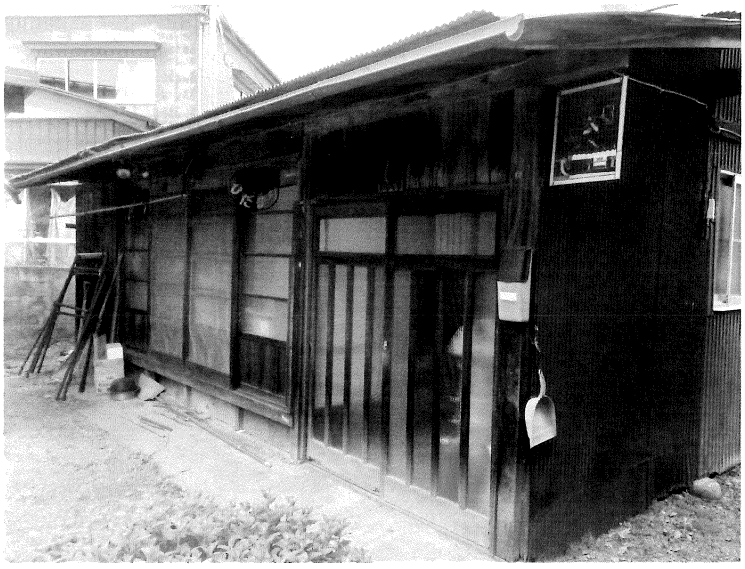
⇒入学時はジャージ含め学用品を一律にそろえられないものか？

子ども手当ての代用にしても良いのでは？　給食も無料化が望ましい。

② 発達障害の子が支援学級で二次障害になり施設に来た子が沢山いる。

⇒対応の如何によって成否が分かれる。⇒その子に応じた対応必要。

③ また、学校だけに任せるのではなく、空き教室を活用してそのような子を受け入れる事も必要。



7. 所　　感

① 今年２月に宇都宮大学で行われたシンポジウム「子どもの貧困と地域社会」で畠山理事長さんのお話を伺い感銘を受け、また、下野新聞の連載「希望って何ですか　貧困の中の子ども」を読み、この「ひだまり」に興味を持ちました。
今回直接お話を伺い、思っていた以上の包容力の大きさと、子どもたちを守り抜こうとする信念の強さを肌で感じてきました。
やはり、このような事業を支える力は、経営手腕でも経済力でもなく、どこまでも子どもたちに向き合い、寄り添う、暖かな心である事を学ばせて頂きました。

② 佐野市でもこのような取り組みをしたいと思いますが、果たしてこのような志を持った担い手が現れるかどうか、にかかっていると感じます。人材は居るのか？居なければ、育てるしかない。でもきっと居ると思います。

③ 行政にはそんな民間の力を見つけ出し、育成し、共に協力し合って、佐野市民の福祉向上のための環境整備をして頂きたいと思います。

以上　　菅原　達